

2008年3月18日

報道各位

財団法人稲盛財団
京セラ株式会社
国立大学法人九州大学

財団法人稲盛財団の寄附建物「稲盛財団記念館」及び
京セラ株式会社の「稲盛フロンティア研究センター奨学寄附金」
の贈呈式及び記者会見について

2011年に百周年を迎える九州大学に対して、財団法人稲盛財団(理事長 稲盛 和夫)と京セラ株式会社(代表取締役社長 川村 誠)は、世界最高水準の教育研究拠点として、また広く社会に開かれたキャンパスとして九州大学が整備を進めている伊都キャンパスの構築に寄与するため、同キャンパスに教育研究や国際交流及び地域交流を推進する中核拠点として「稲盛財団記念館」を建設し寄贈すること、及び社会に欠かせない最先端技術の創成、心と技術の調和など次世代の研究を担う若手研究者の支援を目的とする「稲盛フロンティア研究センター奨学寄附金」を贈呈することについて、本日合意いたしました。

本日、下記のとおり三者間で贈呈式及び記者会見を実施いたします。

記

贈呈式及び記者会見

(1) 贈呈式：2008年3月18日(火) 15時～15時15分

出席者：財団法人稲盛財団	理事長	稲盛 和夫
	専務理事	稲盛 豊実
京セラ株式会社	代表取締役会長	中村 昇
九州大学	総長	梶山 千里

(2) 記者会見：2008年3月18日(火) 15時30分～16時15分

出席者：財団法人稲盛財団	理事長	稲盛 和夫
	専務理事	稲盛 豊実
京セラ株式会社	代表取締役会長	中村 昇
九州大学	総長	梶山 千里
	理事・副学長	小寺山 亘
	理事・副学長	村上 敬宜

内 容：○梶山総長挨拶
○稲盛理事長挨拶
○中村会長挨拶
○建物概要についての説明
○質疑応答

2008年3月18日

報道各位

財団法人稲盛財団

稲盛財団から九州大学への建物寄附について

財団法人稲盛財団（理事長 稲盛和夫）は、国立大学法人九州大学が2011年に創立百周年を迎えるにあたり、世界中の人が集い交流を深めながら、人類と社会に貢献するための「知の新世紀を拓く」新しい教育研究拠点を構築されたいという九州大学の趣旨に賛同し、伊都キャンパス内に「稲盛財団記念館」を建設し、寄贈いたします。

稲盛財団は、この「稲盛財団記念館」が九州大学の教育研究や国際交流及び地域交流を推進する中核拠点として、社会に広く開かれた大学の象徴になるものと期待しております。

【稲盛財団記念館の概要】

- | | |
|--------|---|
| ①寄附者 | 財団法人稲盛財団 |
| ②場所 | 福岡市西区大字元岡744番地（伊都キャンパス内） |
| ③構造・階数 | 鉄筋コンクリート造・地上4階 |
| ④床面積 | 約3,400㎡ |
| ⑤工事着工 | 平成20年7月 |
| ⑥完成予定 | 平成21年6月 |
| ⑦寄附の時期 | 完成後すみやかに |
| ⑧主な施設 | ・稲盛フロンティア研究センター
・稲盛財団ライブラリー（仮称）
・稲盛国際ホール（仮称）等 |

このリリース資料は、下記の報道機関に配布いたします。

- 【福岡】九州大学記者クラブ、九州地区内地方新聞社
- 【京都】京都大学記者クラブ、京都経済記者クラブ、在阪民放京都支局各社
- 【大阪】大阪科学記者クラブ、大阪機械記者クラブ
- 【東京】文部科学記者会

<本件に関するお問い合わせ先>

財団法人稲盛財団 広報部 徳留、平川
〒600-8411 京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町 620 COCON 烏丸 7F
TEL : 075-353-7272 FAX : 075-353-7270
E-mail : comm@inamori-f.or.jp

九州大学「稲盛財団記念館」寄贈趣意書

財団法人稲盛財団は、国立大学法人九州大学が2011年に創立百周年を迎えるにあたり、世界中の人が集い交流を深めながら、人類と社会の進歩発展に貢献するための「知の新世紀を拓く」新しい教育研究拠点を構築されたいという九州大学の趣旨に賛同し、百周年の御祝いとして「稲盛財団記念館」を建設し、寄贈いたします。

この「稲盛財団記念館」の寄贈は、稲盛財団が主催している京都賞顕彰事業や若手研究者を対象とした研究助成事業の審査選考等を通し、日頃より九州大学の先生方から頂いているご支援に対する、心からの感謝の意を表すものです。

本記念館内には、安心・安全な社会に欠かせないエネルギー、環境、情報通信などの最先端技術の創成を通して、人と技術の調和、心と技術の調和に貢献する研究機関である「稲盛フロンティア研究センター」の設立が計画されています。

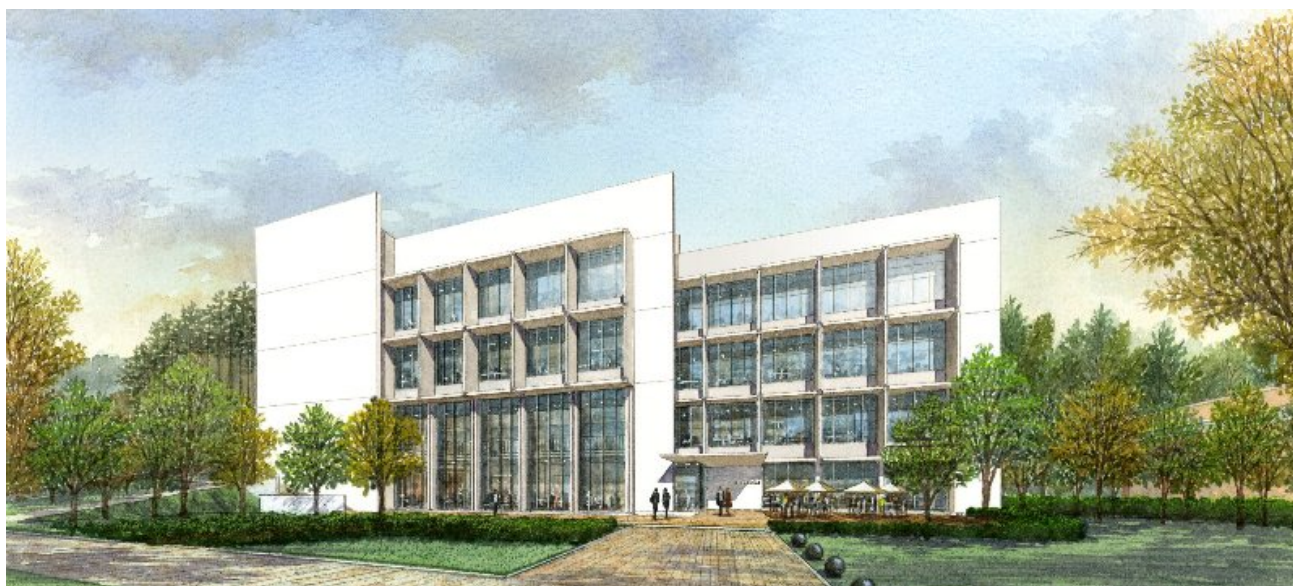
またさらには、九州大学側からの申し出により、人類の平和と繁栄に貢献することを目的とする稲盛財団の活動を、九州大学を訪れる研究者、文化人、並びに将来を担う子供達を含む一般市民にも広く紹介するための展示施設「稲盛財団ライブラリー（仮称）」も本記念館内に併設し、寄贈させていただくことになりました。

稲盛財団は、今回の寄贈を通して、九州大学が日本を代表する学問の府として地域社会はもとより、国際社会に向けて、21世紀の更なる学術・研究の発展に真に貢献されることを心より願うとともに、九州大学がこの新拠点で取り組まれる学術研究の成果が、稲盛財団がその理念として標榜する、科学の発展と人類の精神的深化のバランスのとれた社会の実現に大きく寄与されるものと信じてやみません。

2008年3月18日

財団法人 稲盛財団
理事長 稲盛和夫

・九州大学「稲盛財団記念館」完成予定図



・伊都キャンパス地図



2008年3月18日

報道各位

京セラ株式会社

九州大学「稲盛フロンティア研究センター奨学寄附金」の贈呈について

京セラ株式会社（社長：川村 誠）は、国立大学法人九州大学の創立100周年記念事業の一環として、同大学に対し、「稲盛フロンティア研究センター奨学寄附金」を贈呈することといたしましたのでお知らせいたします。

「稲盛フロンティア研究センター」は、心と技術の調和に貢献する研究活動を行うとともに、若手研究者の交流と育成を目的として創設されるものであり、京セラは同センターの創設趣旨に賛同し、その運営費用として九州大学に対し、初年度（2008年度）に1億円、その後年間7,000万円を4年間、合計5年間で総額3億8,000万円を寄附いたします。

京セラは、かねてより「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること」を経営理念として掲げておりますが、同センターが人類社会の安心と安全に貢献されるような分野を中心とした研究開発で世界的に注目され、将来、研究者の中から「ノーベル賞」や「京都賞」などの受賞者が輩出されるなど、人類社会の進歩発展に大きく貢献されることを期待しております。

■ 稲盛フロンティア研究センター概要

「稲盛フロンティア研究センター」は、九州大学伊都キャンパス（福岡市西区元岡 744番地）に、財団法人稲盛財団から寄贈される「稲盛財団記念館」内の研究組織として創設されます。なお、同記念館の完成予定は2009年6月ですが、本年4月より関連教授の研究室にて研究が実施される予定です。

このリリース資料は、下記の報道機関に配布いたします。

【福岡】九州大学記者クラブ、九州地区内地方新聞社

【京都】京都大学記者クラブ、京都経済記者クラブ、在阪民放京都支局各社

【大阪】大阪科学記者クラブ、大阪機械記者クラブ

【東京】文部科学記者会

■ 報道機関からのお問合せ

京セラ株式会社 広報室

本社：Tel:075-604-3514（直）

東京：Tel:03-3274-1577（直）

九州大学「稲盛フロンティア研究センター奨学寄附金」 贈呈趣意書

九州大学の梶山総長より、弊社名誉会長稲盛の経営哲学のベースにある、人の心のあり方を大切にする事は、大学の運営や研究活動の推進にもきわめて重要であり、そのような考え方を基本に据え、心と技術の調和に貢献する研究活動を行うとともに、若手研究者の交流と育成を目的とした「稲盛フロンティア研究センター」を、同大学の創立100周年記念事業の一環として設立したいので協力してほしい、との依頼をいただきました。

弊社は、その趣旨に賛同するとともに、日本を代表する大学のひとつであり、弊社の主力工場や研究所とも比較的近くに位置する九州大学の更なる発展を期待し、「稲盛フロンティア研究センター」の運営と将来の自立を支援するために、初年度（2008年度）1億円、その後、年間7,000万円を4年間、合計3億8,000万円を奨学寄附金として、九州大学へ寄附させていただくことにいたしました。

この「稲盛フロンティア研究センター」は、現在福岡市西区伊都地区へ移設された新キャンパスの中央に、稲盛財団から寄贈される「稲盛財団記念館」内に創設され、そこでは将来の人類社会の安心と安全に貢献するような分野を中心とした研究開発が進められる予定です。

弊社は、「稲盛フロンティア研究センター」が世界から注目される素晴らしい研究センターとして運営され、将来、研究者の中から「ノーベル賞」や「京都賞」などの受賞者が輩出され、人類社会の進歩発展に大きく貢献されることを期待しております。

2008年3月18日

京セラ株式会社
代表取締役会長 中村 昇



財団法人稲盛財団及び京セラ株式会社から 九州大学に対して 「稲盛財団記念館」及び「稲盛フロンティア研究センター奨学寄附金」を寄附

概要

このたび、九州大学の創立100周年記念事業の一環として、九州大学に財団法人稲盛財団（稲盛和夫理事長）様から、伊都キャンパスに教育研究や国際交流及び地域交流を推進する中核拠点として「稲盛財団記念館」を建設し、ご寄贈いただくこと、並びに京セラ株式会社（川村誠代表取締役社長）様から社会に欠かせない最先端技術の創成、人と技術の調和、心と技術の調和に貢献する研究及び次世代の研究を担う若手研究者の支援を目的とする稲盛フロンティア研究センターに対し「稲盛フロンティア研究センター奨学寄附金」をご寄附いただくことについて、本日合意いたしました。

九州大学は、財団法人稲盛財団様及び京セラ株式会社様からいただくご寄附及び寄附建物を有効に活用し、2050年を視野に人間が安心して快適に生活するために必要な技術を構想し、開発する、“人類の夢”を追求する拠点の構築を目指します。

■稲盛財団記念館

この建物は、鉄筋コンクリート造・地上4階建て、延べ床面積約3,400平方メートルで伊都キャンパス内に建設されます。

建物の2階から4階には、人類が安心して快適に生活するために必要となる理想の科学技術について、時代に先駆けて提案できるようなフィールドを提供し、人に優しい科学技術を確立することを目指すとともに、将来の科学技術を担う人材の育成を目的とする「稲盛フロンティア研究センター」（下記参照）が、建物1階には、人類の平和と繁栄に貢献することを目的とする稲盛財団の活動を、伊都キャンパスを訪れる研究者、文化人、並びに将来を担う子供達を含む一般市民にも広く紹介するための展示施設として「稲盛財団ライブラリー（仮称）」と、海外の大学や研究機関などとの学術・文化交流の場として活用する「稲盛国際ホール（仮称）」が入る予定です。

九州大学は、この稲盛財団記念館を、教育研究や国際交流及び地域交流を推進する中核拠点として、社会に広く開かれた大学の象徴として活用してまいります。

■稲盛フロンティア研究センター

この研究センターは、（1）生活居住空間や都市空間における環境浄化技術などの次世代環境技術に関する最先端研究、（2）水素デバイスや燃料電池の無機系材料・プロセスに関する次世代エネルギー研究、（3）新規機能性分子の設計・開発とそのデバイス化のための超構造制御技術と評価技術の研究、（4）通信情報技術の基盤となる最先端材料技術、人と環境と共生可能なデバイス技術に関する研究を軸に、九州大学、日本、そして世界の将来を担う人材のインキュベーターであり、かつ、次世代の先導的プロジェクトの芽を育む拠点として、科学技術の理想を自由に追求できる新しいタイプの研究センターを設置し、新しい学問分野や未来技術の創造を通じて、我が国そして世界の科学技術をリードすることを目標に活動し、今回ご寄附いただく「稲盛フロンティア研究センター奨学寄附金」を活用して運営する予定です。

このリリース資料は、下記の報道機関に配布いたします。

- 【福岡】九州大学記者クラブ、九州地区内地方新聞社
- 【京都】京都大学記者クラブ、京都経済記者クラブ、在阪民放京都支局各社
- 【大阪】大阪科学記者クラブ、大阪機械記者クラブ
- 【東京】文部科学記者会

【お問い合わせ】

九州大学広報室 臼杵 純一

〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目10番1号

TEL:092-642-2106

FAX:092-642-2113

E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

稲盛フロンティア研究センター

稲盛名誉会長の経営哲学と最先端の研究活動を融合し、安心・安全な社会に欠かせない最先端技術の創成、人と技術の調和、心と技術の調和に貢献できる研究を、全学的な支援体制の下に推進する。そのような理念のもと、若手研究者が交流を深め、新しい研究領域やベンチャー立ち上げに利用でき、それを大学を挙げてサポートする、知と技術のインキュベーターを九州の地に築き上げる。

○次世代環境技術研究部門（部門長：寺岡教授（総理工））

（生活居住空間や都市空間における環境浄化技術などの次世代環境技術に関する最先端研究）

○次世代エネルギー研究部門（部門長：佐々木教授（水素センター、工））

（水素デバイスや燃料電池（SOFCなど）の無機系材料・プロセスに関する次世代エネルギー研究）

○次世代機能性分子超構造研究部門（部門長：高原教授（先導研））

（新規機能性分子の設計・開発とそのデバイス化のための超構造制御技術と評価技術の研究）

○次世代エレクトロニクス材料研究部門（部門長：浅野教授（システム情報））

（通信情報技術の基盤となる最先端材料技術、人や環境と共生可能なデバイス技術に関する研究）

- ・各部門に特任（准）教授1名と特任助教1名を配置
- ・次世代を担う中堅若手研究者の“登竜門”的なダイナミックな研究センター
- ・学外の若手研究者を特任准教授などとして受け入れる共同研究も積極的に実施
- ・各部門ごとに九州大学を代表する数名の兼任協力教員を配置し、大学が全面的にバックアップ

稲盛フロンティア研究センター

2050年を視野に、人間が安心して快適に生活するために必要な技術を、今から考えて構想し開発する、“人類の夢”を追求する研究センター。

